わなゝき

末吉安持

青空文庫

瞬時の夢の装飾も、
しかすがに彩映ゆれば、
紫の絹の帳、
永遠の生命ありと、
平和を守りいつきて、
心ある春の雨は、
軟らに音なく濺いで、
しのびに葉末を流れぬるか。

瞬たけばまた夜明けて、
瞬たけばまた日暮れぬ、
直黄もゆる夕雲を、
きらの眼に見かへりて、
白無垢の乱れ羽に
血を浴べる、小鴿一羽、
枝ぶり怪しき柏の

木ぐれに落ちたる様はいかに。

瞬たけばまた夜明けて、
四辺(あたり)また暗き千里(せんり)、
かゝるときや古琴(ふること)も、
虫ばみ折れて落つらむ、
若葉の雨も今宵は、
蕭々(せう〳〵)のわび音立(ね)てゝ、
あな悲し白木蓮(びやくもくれん)の
ほろゝのこぼれぞ胸にひゞく。

点滴拍子(あまだれべうし)さびしう、
刻々夜(よる)をきざみて、
短檠(たんけい)のほびも瘠(や)せぬ、
小香炉(こがう)の灰も冷えぬ。
晩春(ばんしゅん)の項(うなじ)重う、
古甕(ふるがめ)の神酒(みき)を汲(く)みて、

肱まくら思ひ入れば
あゝ胸柱切にわなゝく。

わなゝきはあわたゞしく、
小暗き室をはしりて、
闇に消えぬ、一しきり
木蓮の散る音につれ、
古甕はげしく裂けて、
あら御酒の泡もとめす、
大いなる、わなゝきぞ、
天地のかぎりにひろごりぬる。

折りから真闇のをちに、
生命の緒断つ氷鋏、
わなゝく大気にひゞきて、
終焉の影を依々たる、
あゝ束の間の装飾に、

酔ひしれず、霊のまへに、
涙の意(こゝろ)さぐらずば、
わが魂(たま)いかにか迷ひけらし。

青空文庫情報

底本：「沖縄文学全集　第1巻　詩※［#ローマ数字1、1-13-21］」　国書刊行会
　　1991（平成3）年6月6日第1刷
入力：坂本真一
校正：フクポー
2019年2月22日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

わなゝき

末吉安持

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/